

平成 22 年第 4 回定例会-3D(第 7 日 12/6)

- 議長(浅野正明) 石川敏宏議員。(拍手)

[石川敏宏議員登壇]

- 石川敏宏議員 提案者に何点か質問をしたいと思います。

私たちは、議会の議員の定数の基本的な考え方は、長谷川議員も先ほど触れましたけれども、可能な限り広く民意が反映できる制度にしていく、これが一番大事なことです。民意を反映する、そういう議会であるということが最も大事なことであるというふうに思っています。

長谷川議員は、質を高めるためには50から40でいいんだという、そういう提案をされたわけですが、きょうは選挙管理委員会にちょっと資料もいただきましたけれども、この3回の選挙で、定数50でやった選挙で、51以下の比率がどれぐらいかということ、いわゆる議席に結びついていない得票というのが、前回の選挙では11%ですね。それから、その4年前の平成15年度では8.6%、平成11年度は候補者が多かったということで15.5%ということでありました。つまり、投票した人の1割から1.5割、この人たちの意見は切り捨てられているけれども、8割から9割の民意は議席に結びつくという形で民意が反映される、そういう今の議員制度になっています。

それで、じゃあ前回の選挙で41位から50位までの方を切った場合に、この方たちの得票率は12%です。ですから、大体定数を40で区切ると、4人に1人の得票が議席に結びつかないという形になるのではないかというふうに思います。もちろん、投票率あるいは候補者数によってこれは変化しますが、かなりの人たちの投票というものが議席に結びつかないということになってしまっていて、長谷川議員の提案している内容は、私はそういう民意を反映するという、その機能をやっぱり損なうものであるんだというふうに思いますが、そういうことに対して、こういうことは構わないんだというふうにお考えなのかどうかを、ひとつ伺いをしたいというふうに思います。

それから、議会の改革問題と定数の削減問題は別な議論としてやっていける問題ではないでしょうか。長谷川議員が提案したいろいろな議会の改革については、私たちも賛成できる、そういう内容については、たくさん含まれていたというふうに思います。それで、なぜ急にこういうものを出してきたのかということについての先ほどのお答えは、9月の議会ごろからいろいろ相談をしてきたんだというふうには言っておりましたが、そうであっても、この間、会派代表者会議がありましたし、あるいは長谷川議員が

言っているような、議会事務局の調査機能を充実させていくという問題についても、この間幾らでも各会派に提案でき、議論をしていく場というのはつくれたのではないかなというふうに思いました。そういう点では、なぜそういうふうな議会の中でのしかるべき場で自分の考えを述べてこなかったんでしょうか。

それからもう1つは、40にすると質の向上を図ることが、何回かやっていけばできるんだというお話をされましたけれども、議員の質という問題は、やっぱりそれぞれ、なかなか客観的な物差しではかるということは難しいと思うんですけども、しかし、わかりやすい指標で言えば、それは、私はやっぱり、木村議員も政策で選挙をやるべきだというふうに言いましたけども、少なくとも私たちは有権者に選んでいただく場合には、公約を掲げて、その公約を4年間の中で実現をするということを有権者に約束をして、議会に押し上げてきていただいているわけですね。

そのことが裏切られているからこそ、市民は「議員は何をやっているのかわからない」と。提案者の言うように「●●さんはどうしているの」というような形の有権者からの声が聞こえてくるのではないかなというふうに思います。そういう点で、とにかく議員の質が問われるという問題で、やっぱり大事な問題は、きちんと公約を掲げ、その公約をきちんと実現してきているかどうか、そののところについて有権者に審判をしてもらうということが、私たち議員としてのありようではないかというふうに思います。

で、言いましたように、当然公約を実現をしてこない議員は、次の4年後の選挙の中で有権者からの審判を受けて当落が決まっていくわけでありますから、そういうところで質の問題については判断をされていくのではないのでしょうか。無理やり50を40にして質を上げようと言っても、こうした公約をきちんと実現する問題、あるいは市民の声をきちんととらえて実現をするというような、そういう努力をしてこないことが議員の質の問題として問われてきているのではないかというふうに思います。

その3点について質問をしたいと思います。

[長谷川大議員登壇]

●長谷川大議員 まず最初に、51以下の得票数のお話がありましたけど、ご質問者ご本人がおっしゃっていたように、投票率だとか何か考えていったら、そういう理屈であり得ないじゃないですか。で、ちょっとセンスの悪い質問だと思います。

余り意味のない、意味のないっていうか、「切り捨てられる」とかっていう言い方をなさってましたけど、40人になったら、今度は40人に票、寄っていくんですよ、どっちかっていうと。（「1人にしたほうがいいじゃない」と呼ぶ声あり）だからそういう意味で

は、おっしゃるとおり、より少なければ少ないほうに寄っていくんですね。切り捨てられるっていうお話があったけれども、それは切り捨てられるんじゃないで、僕は先ほどの説明の中でも申し上げたように、どちらかという、議員の数よりも民意を吸い上げるシステムの確立のほうが大事じゃないかということなんです。

だって、結局、何回選挙をやろうと、今石川議員がおっしゃったように、落選する方に投票する方って必ずいるわけですよ。その票が死に票なんだと。死に票というか、民意の反映にならないんだという理屈でおっしゃるんだとしたら、それを拾い上げるシステムをつくれればいいだけのことであって、そこに議員の定数の問題が出てはこないというふうに私は思います。

それから、議会改革と定数の削減っていうのは別々にできるっていうのは、おっしゃるとおりだと思います。ですから、本当は別々に議論するのも1つの方法だと思います。ただ、私は、今回のこの提案に当たって、その理由の中に入れてさせていただいたということですね。（「何で今まで黙っていたかということ」と呼ぶ者あり）

それから、しかるべき場所でなぜ述べなかったということですね。これに関しては、このところでまとまってきたというふうにご理解いただいたほうがわかりやすいかもしれません。一つ一つをその場その場でご提案させていただくのも1つの方法、それから、先ほど申し上げたように、この定数の問題は前回の議会ぐらいからいろんなところに相談をしたり、いろんな方々の声を聞いて、あるいはいろんなところの議会がもめてということを見聞きした中で、この議会に提案をさせていただくということでやらせていただきました。

それから、公約の実現というお話が出たんですけど、公約を実現してらっしゃるんですか、というのが私のほうからお聞きしたいんですけども。執行機関はこちらですから、実際には、共産党さん、「私たちがこうやりました」とか「あれやりました」とかっておっしゃいますけど、実際のところは、私は市長がやられている話だと思います。それを公約の実現という大層な表現をなさるのは、果たしてどうなのかなと。

それで、共産党さんのふだんからの市長に対する要望を見ると、べらぼうな数があるわけですよね。べらぼうな数があって「下手な鉄砲も数打ちや当たる」じゃないんですけども、必ず市長のほうで何かやっただけのようなことだって、要望として挙げてらっしゃる。で、それが公約になってる。公約の中でも実現できないものもある。実現できたものもあるっていう言い方をするのは、メニューが物すごくあるからですよ。

この間、民主党さんがいろいろと財源の問題で批判を浴びたりしましたけれども、共産党さんこそ、全然財源のことなんか関係なく、ばあっと羅列しますよね、要望を。それを公約としてらっしゃるじゃないですか。それってありなのというところは僕はありますけれどもね。そういう意味では、公約の実現、公約の実現っておっしゃるけれども、果たしてそれが本当に公約の実現なのというところは、こちらから問いかけたいことであります。

以上でございます。

[石川敏宏議員登壇]

●石川敏宏議員 私たちは、できるだけ民意が反映される、そういう選挙制度や、あるいはまた議会構成にしていくべきだというふうに言って、それが、定数が削減されればされるだけ住民の声が届かなくなるということで、この問題を指摘をいたしました。

現在の50人の定員でいけば、1割から1割5分の人たちは残念ながら自分の思っていた候補者を議会に送れませんけれども、そのほかの人たちは何らかの自分の思いを代弁してくれる議員を送って、住みよい町、安全な町をつくってということが実現できているわけです。それが40になれば、前回の選挙の結果で言えば、25%ぐらいの人たちは残念ながら反映できないということになってしまいますね。そういうことを指摘をしました。やっぱり私たちは、長谷川議員がいろいろ発言をされることも非常に大事だというふうに思います。定数が40になれば、そういう発言がもしかしたらできなくなってしまうかもわかりませんし、ほかの議員もやっぱり議会で発言する機会ができなくなってしまうんじゃないでしょうか。

ちなみに、調べたんですけども、定数52のときには、本当に議席に届かなかった票というのはたったの3,000票ぐらいしかないんですよ。ほとんどもう、98%ぐらいの有権者の意思が議席に反映されるという形で、やっぱり議席が多ければ多いほど死に票が少なくなるという形で、有権者の声が届くということに、これは明らかに今までの選挙結果でも出ていますから、長谷川議員が、そういう問題ではない、定数とは関係ないという、そういうお話ではないと思いますので、これについて再度お尋ねをしたいというふうに思います。

それから、別々にやるべきだと思うということはおっしゃいました。そうであれば、私はこういう重要な問題については、やっぱり時間をかけて、十分な議会の各会派の合意あるいは相違点も明らかにした上で結論を出していくというのが必要なことではないでしょうか。それを、今議会と、あと3月の議会しかないというこういう時点に出してく

るというのは、やはりこれまでの議会のやり方からすれば、やはりちょっとルールを逸脱をしているんじゃないかなというふうに思いましたので、そういう点について改めてお伺いをしたいというふうに思います。

それから、質の問題については、やはり有権者が判断するのは、その議員が掲げた公約をどれだけその候補者が、その議員が実現をしてきたかということによって、具体的な指標としてははかられるしかないのではないのでしょうか。

私も幾つかの選挙公約を掲げてきています。それを実現をしようということで、議会の中での質問をやっていきますし、あるいは市長に対する毎年の予算要望書の中でやるのは当然だというふうに私は思っていますし、それが、有権者が次の選挙で判断する材料なのではないのでしょうか。40人にしたからといって掲げた公約を全く実現もしないというようなことが、先ほど長谷川議員が言ったような「あんた何やってんの」とか「どこに行ってるかわかんないよ」というような、そういう有権者の声に私はつながってくるのではないかというふうに思います。

私たちは、毎年市政アンケートをとって、そこから本当に切実な市民の要望がたくさん挙がってきます。それから、どぶ板問題を含めて、道路の問題とか、それはたくさんありますから、それはやはり、当然そういう問題について市長に要請するのは当然の私たちの責務だというふうに思っていますし、そういうふうな市民からの要望に1つつ誠実に対応していくことが、議員やあるいは議会に対する信頼につながっていくことに私たちはなり、そういうことが有権者の判断の大きな材料になるんじゃないかなというふうに思っていますので、改めて、それが質として大事ではないかということを目指したいと思います。

以上です。

[長谷川大議員登壇]

●長谷川大議員 市民権の反映の話なんですけども、過去にさかのぼって、今、石川議員が数字をお示しになってお話しになりましたけれども、それでも結局、市民意見の反映ができていないと判断したから、こっちは市民協働課とかがつづいて、よく使う言葉じゃないですか、自助・公助・共助とかがつづいたり、協働とか言ってやってるわけじゃないですか。

それで、いろんな審議会ですとか何か出ていくと、公募の委員さんが随分入ってくるようになっていきますよ。市民の方々が直接、私が出ている都計審でも、ご自身の意見を述べてらっしゃいます。そういうふうに、どんどんどんどん、この市役所、市民に開

かれてきてて、議会とは別のところで市民意見を反映できるようなシステムをつくり上げてきているんですね。だから私は、それはそれでいいと思っているんです。

だから、そのところを細かく51以下の人の数字を拾い上げて云々しなくても、その人たちがみずから何かアクションを起こそうと思えば、アクションを起こせる環境が今どんどんどんどん整ってきている。（「最後に議案を否決する……」と呼ぶ者あり）それで、そういうことができ、それで、次なるステップをその市民の方が望めば、今度その方が立候補すればいいんですよ。それだけのことです。

それから、時間をかけていくべきではないかというお話がありました。十分な議論ができればそれでよかったんだと思うんですけども、先ほど申し上げたような、私の頭の中で考えてたことがだんだんだんだん形になってきたのが最近の話であるし、それから、議会のルールの中でのタイムリミットもあるし、この間、議会運営委員会で、私と中村実議員だけでは条例提案ができないということもあるし、という中で、すべてが時間との追っかけっこだったんですね。ですから、何もその、もっと早くから、もっと大勢の方を巻き込んで賛同者を得られて進められれば、それにこしたことはもちろんなかったと思うんですけども、残念ながら、今回は私の行動の仕方としてはそれができなかったということです。

それから、質の問題の話で、また先ほど、市民アンケートをおとりになって、それを一つ一つ実現をしていく努力をすることが大切なんだというお話でした。それはそのとおりだと思いますけれども、思いますけれども、手法の違いというか、何というんでしょう、アンケートのとり方は、私存じ上げませんけれども、共産党さんがおとりになっているアンケートの結果に基づいた質問も一度させていただいたことが予算か決算でありましたけれども、意図的とは言いませんが、1つの方向に導こうという、恣意的というか、何でしょう、アンケートの仕方をしてるのかなって思うような、我々が市民の方から聞くお話とは違う答えを共産党さんはお持ちになって、それを質問なさっているケースが多々見受けられたような気がしますけれども、それはそれで、共産党さんを支持する方の意思であるわけですから、その要望にこたえていくことは、それはそれでよろしいんじゃないかと思いますし、我々は我々の側でそういうことをやっていくのも1つの方法かもしれませんけれども、それだけが質の向上というのではないのではないかというふうに思っておりますし、もう1つは、役所がシステムの動くようになってるんで、何か身近なことで困ったことがあれば、町会長さんとか民生さんとかで間に合うことが多いんですね。だから、我々がそういうことばかりに気をとられてて、大局的に物事を見られないことがそれでいいのかどうかということもあるので、その辺もやっていければなあという気持ちで、きょう説明をさせていただいたところでございます。

以上でございます。